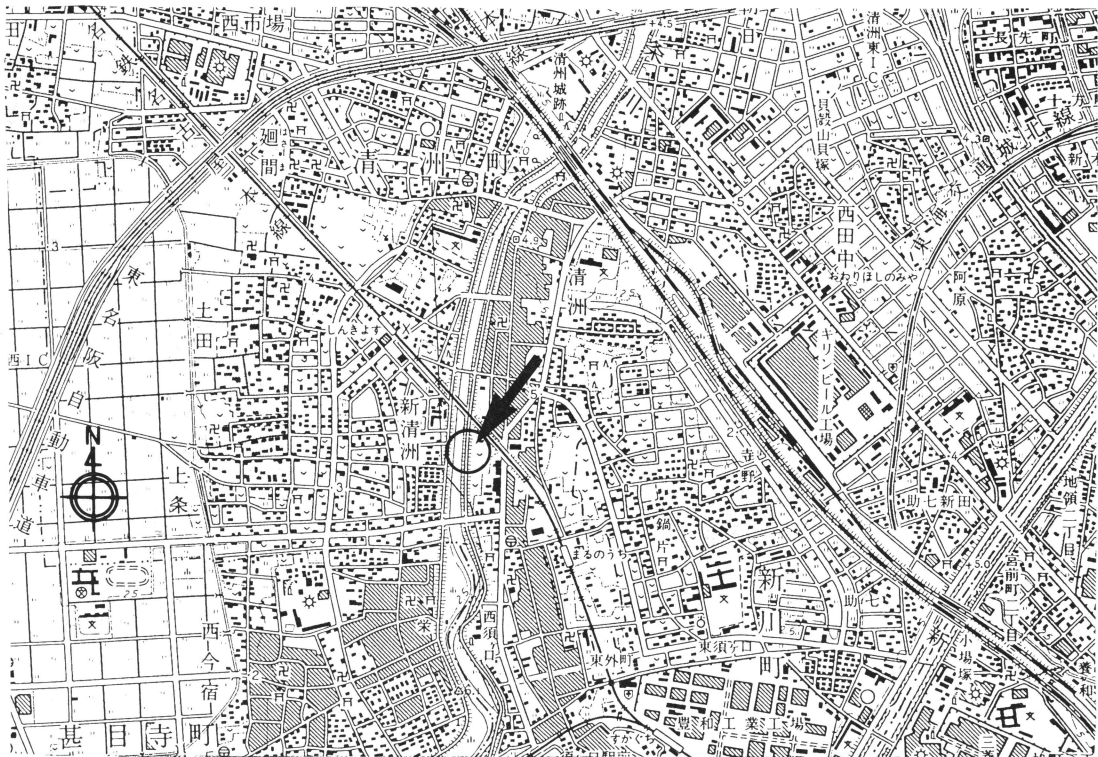


清 洲 城 下 町 遺 跡

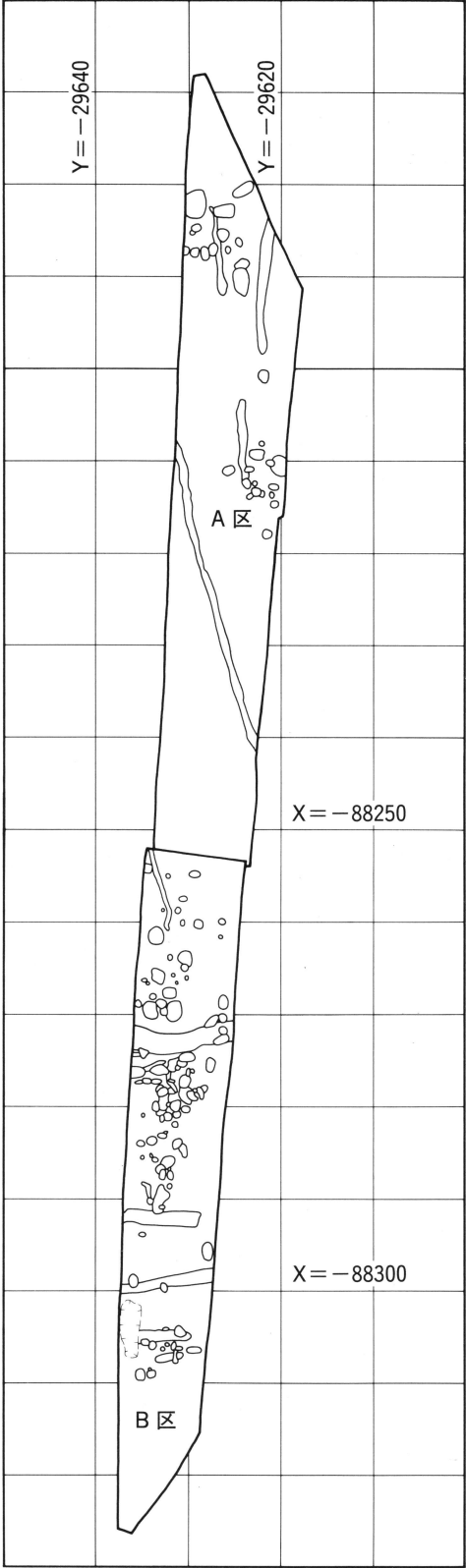
調査の経緯 清洲城下町遺跡は、西春日井郡清洲町に所在する古代から近世にかけての複合遺跡である。当遺跡は、濃尾平野を流れる幾多の河川のうち、五条川中流域に形成された自然堤防とその後背湿地上に立地する。この五条川は遺跡からさらに南流し、新川と合流してやがて伊勢湾に注ぐ。発掘調査は昭和59年から継続されており、今年度は五条川河川改修に伴う事前調査として、平成7年11月～平成8年3月まで行った。本地点の発掘調査面積は、3,000㎡である。

調査の概要 調査区は名鉄本線が五条川を渡る鉄橋の南側左岸に位置し、これを排土処理の関係上北と南（A・B区）に分割設定して調査を行った。

検出された遺構は、溝・土坑・不定形土坑・井戸などであり、これらは近接する調査地と同様の様相を呈する。これらの遺構の時期については、出土遺物がいずれも少なく明確に判断できるものが少なかったが、戦国期から江戸初期にかけての時期が主体ではないかと思われる。出土遺物は、陶磁器類がその大半を占め、これに石製品、金属製品等が加わる。今回の調査では特筆されるものこそ検出し得なかったものの、主体とする時期はこれまでの調査・報告で城下町期とされた時期にあたり、既に遺構・遺物からさまざまな分析が成されているが、こうした成果に追加されるものとなろう。（松田 訓）



第1図 調査地位置図（国土地理院1/2.5万「清洲」）



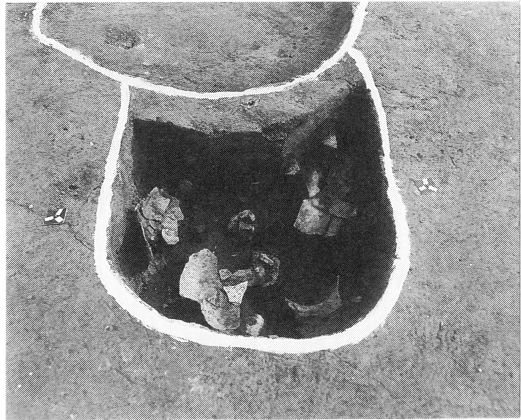
第2図 遺構位置図



第3図 A区全景



第4図 B区全景



第5図 遺物出土状態